

# 医科研究会

日医生涯教育制度認定講座(申請中)  
CC・単位数(「20」不眠・2単位)



内村直尚 先生  
(久留米大学医学部  
神経精神医学講座教授)

講師

### 講師略歴

- 1982年3月 久留米大学医学部 卒業
- 1982年4月 久留米大学大学院医学研究科生理系専攻博士課程 入学
- 1986年3月 久留米大学大学院医学研究科生理系専攻博士課程 修了
- 1986年4月 久留米大学医学部神経精神医学講座 助手  
久留米大学医学部生理学第一講座 兼務
- 1987年5月31日~1989年4月30日  
米国オレゴン州 Oregon Health Science Universityへ留学
- 1990年4月 久留米大学医学部脳疾患研究所 助手  
久留米大学医学部神経精神医学講座 兼務
- 1992年9月 久留米大学医学部神経精神医学講座 講師
- 2000年4月 久留米大学医学部神経精神医学講座 助教授
- 2007年4月 久留米大学医学部神経精神医学講座 教授

### 主な所属学会等

- ・日本睡眠学会:理事
- ・日本アルコール精神医学学会:理事
- ・九州精神神経学会:理事
- ・日本精神神経学会:評議員
- ・日本臨床精神神経薬理学会:評議員
- ・日本時間生物学会:評議員
- ・日本精神科診断学会:評議員
- ・日本不安障害学会:評議員

### 講師からの一言

不眠を訴えるからといって容易に睡眠薬を投与するといった態度は厳に慎まなければならないが、患者が不眠やその恐れのために苦しみ悩んでいる時や、日中の眠気や倦怠感が患者の日常生活(QOL)に悪影響を与えている時には、睡眠薬を積極的に使用すべきである。

一方で、近年、睡眠薬は様々な潜在的リスクを持ち合わせていることも明らかになっている。2013年には「睡眠薬の適正使用・休薬ガイドライン」が発刊され、それ以降、診療報酬改定や添付文書改訂などにより、睡眠薬の長期服用や多剤併用を減らす取り組みがなされてきている。睡眠薬の適正使用が強く求められる今、出口すなわち休薬を見据えた不眠症治療を実践することが非常に重要となってきた。

当日は、出口を見据えた不眠症治療を実現するためには何をすべきか、薬剤選択も含めた治療戦略について概説する。

出口を見据えた睡眠薬の使い方



# 薬物療法

# 一般医のための不眠に対する



日時 7月17日(火) 19:30~21:30 \*参加対象/医師、スタッフ

会場 アバンセ第1研修室

佐賀市天神3丁目2-11  
TEL0952-26-0011

参加費  
無料

HP

主催 佐賀県保険医協会

☎ (0952)29-1933 FAX 23-5218  
E-mail: hoken-i@star.saganet.ne.jp

### FAX参加申込書

**FAX (0952)23-5218**

2018.7.17(火)

一般医のための不眠に対する薬物療法  
～出口を見据えた睡眠薬の使い方～

参加人数	医師	スタッフ
	名	名

医療機関名
御氏名
御住所 〒
☎ ( ) -